

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	R5達成状況	R5成果と課題	学校関係者評価	R5今後の改善点
学力保障	<p>学力支援 【目標】表現する（話す・書く）ことが楽しいと思える授業づくりによる児童の学力及び学習意欲の向上 【目標】学習ボランティアの活用による学習意欲の向上 【指標】学校アンケートにおいて「国語は楽しい」「算数は楽しい」「国語の勉強は大切だと思う」「算数の勉強は大切だと思う」と答える児童の割合80%以上 【指標】「ゲストティーチャー、学習ボランティアの方が来て下さって良かった」と答える児童の割合80%以上</p>	<p>・児童アンケートより「国語は楽しい」82%「算数は楽しい」74%で国語では目標を達成できたが算数では目標を達成できなかった。「国語の勉強は大切だと思う」95%、「算数の勉強は大切だと思う」99%で目標を達成することができた。 ・児童アンケート「ゲストティーチャー、学習ボランティアの方が来て下さって良かった」は96%で目標を達成できた。</p>	<p>・国語科の学習では、音読劇の発表、調べたことの発信（発表・展示）などの取り組みにおいて楽しさややりがいを感じている児童もいる。またコロナ禍が落ち着いたこともあり、友達と交流する機会が増えた。引き続き学習の成果を友達や地域の人に発信する機会を設定していく。 ・ゲストティーチャー等の出前授業を楽しみにしている児童も多い。本の読み聞かせ、米作り体験、芋掘り体験、調理や裁縫の支援など、ボランティアの方と一緒に活動する機会がコロナ禍以前の水準に戻りつつある。引き続きいろいろな人に出会う機会を増やし、担任だけではなく地域全体で児童の成長を支援していく。 ・読書が好きと答えた児童は79%で昨年度より11%減少した。ブックトークや学級文庫の充実等、児童が本の楽しさに触れやすい環境を整えていく必要がある。</p>	<p>・児童が国語・算数について「授業内容がよくわかる」と回答した割合が92%・89%だったが、「よくわかる」と回答できなかった約10%の児童をどうするかが大切。学習ボランティア等で演習問題等に取り組む子どもたちに対応しつつ、つまづく子への支援を教職員が行い、学力の底上げを図ることで「わかる」実感を味合わせられるとよいのでは。 ・学習ボランティアが復活してきた。まだ「〇つけ」は復活していないが、教職員からも評価を得られており学力の定着にも一役買っていた。 ・「読書が好き」と回答した児童の割合が11%下がったことは残念。ただ、絵本サークルの読み聞かせも復活する中、引き続き本の楽しさにふれる環境の整備を行いたい。</p>	<p>・個に応じた学習支援や学習意欲の向上を図るため、ボランティアの活用を引き続き積極的に進める。 ・単元の見直しを持ったり、他学年に発信したりする活動を取り入れることによって学習意欲の向上を図る。機会があれば、保護者や地域の人へ発信する場を設定するなど、児童が学習内容をアウトプットする機会を増やしていく。 ・「考えを広げる」「考えを1つにまとめる」など、目的を明確にした対話活動を取り入れる。 ・本の楽しさに触れることができるよう、読み聞かせの時間や図書時間を確保する。図書巡回指導員を活用し、ブックトークの実施や並行読書の整備、図書の充実を図る。 ・県教委作成の問題集「学VIVAセット」を活用するなどして、条件指定（文字数・キーワードを使うなど）がある問題に取り組む。市教委提供の「読む・書くワークシート」を活用し、視写や新聞を活用した問題に取り組む。</p>
	<p>授業実践 【目標】教師の授業力向上（指導方法の工夫改善） 【指標】提案授業及び公開授業を年間一人1回実施 【指標】学校アンケートにおいて「国語の授業はよくわかる」「算数の授業はよくわかる」と答える児童の割合80%以上</p>	<p>・一人1回の授業公開・事後検討会を実施した。 ・学習に関するアンケート「国語の授業の内容がよくわかる」は92%「算数の授業の内容がよくわかる」89%で目標を達成できている。</p>	<p>・教育指導課から指導主事を招聘し、表現する（話す・書く）ことが楽しいと思える授業づくりについての研修を行った。授業力向上に役立った。 ・授業実践を公開し、身につけさせたい「資質・能力」を明確にした指導方法の工夫改善に取り組むことができた。また、どの教科においても、主体性を引き出したり、考えを共有したりするためのツールとしてタブレット端末を活用している。児童一人一人に応じた学びを支援する工夫を継続していく。</p>		<p>・年間1人1回の授業公開を実施し、指導の工夫を確かめ合う機会を設ける。 ・タブレット端末を活用した学習について職員同士が交流する場を設定する。</p>
キャリア教育	<p>すずか夢工房・出前講座・ゲストティーチャーの活用 【目標】夢工房や出前講座・ゲストティーチャーを各学年が学習内容に合わせ活用 【指標】各学年 年間3回以上の活用</p>	<p>・各学年3回以上活用できた。</p>	<p>・各学年の取り組みに応じて夢工房や出前講座等を活用し、専門的な知識を得るなど、学習効果を上げることができた。</p>	<p>・「様々な生き方を知る、異文化を知る」ということであれば、関連図書の紹介や読み聞かせ等学校図書館巡回指導員や読み聞かせボランティア等が協力できることがある。何を知りたいのか情報共有できるとよい。</p>	<p>・ゲストティーチャーを招いた授業は児童の関心も高く、成果もみられるので継続していく。学んだことを、各教科の学習や行事の取り組みなどに生かす。 ・講師の方から学んだことを振り返る活動を引き続き大切にしていく。</p>
	<p>人間関係形成・社会形成能力の育成 【目標】児童の実態を踏まえた実施計画作成及び授業実践 【指標】「将来の夢や目標を持っている」と答える児童の割合80%以上</p>	<p>・児童アンケート「将来の夢や目標がある」81%で、目標は達成できている。</p>	<p>・学習の終わりに振り返り活動を行い、自分の成長を自覚する機会を設定している。自分が分かったことだけでなく、友達の考えの良かったところも発表している。また、出前講座や小中連携事業（中学生との交流）などを通して様々な生き方に触れることができ、将来のビジョンを明確にする児童が増えた。</p>		<p>・「振り返り作文」や「キャリアパスポート」などの取り組みを通して、自分の生活や学習を振り返る機会を設ける。 ・「遠足」「1年生を迎える会」「運動会」「6年生を送る会」など行事ごとに振り返り活動を行い、できるようになったことを自覚する機会を設ける。</p>
特別支援教育	<p>支援会議、個別の教育支援計画 【目標】子どものニーズにそった支援について話し合える会議の実施 【指標】個別の支援計画を充実させ、必要に応じてケース会議や支援会議等を年間2回以上実施</p>	<p>・支援を要する児童については、必要に応じて支援会議やケース会議を開き、保護者とつながりを持つことができた。 ・SCと連携しながら教育相談やすずっ子ファイルの作成につなげることができた。</p>	<p>・個別の支援計画を充実させながら、保護者とも連絡を取り合うことで保護者との意思疎通ができた。 ・情報共有を行うことで学校全体で支援体制を速やかに組むことができた。</p>		<p>・学年部会や職員会議などで日頃から情報共有の場を継続して設けていく。 ・学期初めや行事に向けてなど、今後も計画的な支援会議を開催し、継続した指導や支援を進めていきたい。 ・保護者との連絡を取りつつ、必要に応じて支援会議やケース会議を行っていきたい。</p>
	<p>多文化共生教育 【目標】異文化理解及びコミュニケーション能力の育成 【指標】鈴鹿大学留学生等との交流を年間1回実施 バンドスケール判定会議を年間2回実施 異文化に触れる機会を学期に1回以上持つ</p>	<p>・ドイツの文化や交通事情について学ぶ機会を持った。 ・3学期にも鈴鹿大学留学生との交流を实地予定である。</p>	<p>・県の事業を利用することにより、普段かかわることが少ない国について知る機会が持てた。 ・日常的に学習や交流の場を持つまでには至らなかった。</p>		<p>・国際交流については貴重な体験になるので地域の大学と連携して進めていきたい。 ・機会があれば、地域の方で海外の生活や文化に精通している方に児童に向けてのお話をしていただきたいが人材発掘から始めていく ・行政の事業も活用していけるよう情報を収集していく。</p>

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	R5達成状況	R5成果と課題	学校関係者評価	R5今後の改善点
人権教育	<p>人権を尊重する態度の育成                      【目標】「豊かな感性を培い、一人ひとりの違いを認め合って、身の回りの差別を見抜く目を養うとともに、差別の解消に向けた実践力をもった子どもの育成」                      【指標】身の回りの差別について考える授業や取り組みを年に2回以上行う。</p>	<p>・学年や学級の実態に合った課題を取り上げた授業を行った。                      ・学校公開デーの授業参観において、人権の授業を公開し、保護者への啓発を行った。                      ・温かい仲間づくりを目指そうと児童が中心になっていじめ防止川柳を作成し、全校に呼び掛けた。                      ・人権ポスター・人権作文・いじめ防止川柳などの機会を利用し、人権について考える時間をもった。</p>	<p>・年度初めに学級の課題に応じた人権の授業を行った。教職員で授業の振り返りを行うことで各クラスの課題や取り組みを共有することができた。                      ・授業公開デーに合わせて、教職員もピンクのものを身につけるなどの取り組みを行うことができた。たくさん保護者に見てもらえたが、保護者の方がどのように感じたかなど意見を聞く機会はもてなかった。                      ・身の回りの差別に気づくことができても、相手の立場にたって考え行動できる子はまだ少ない。今後も引き続き、取り組みを続けていきたい。</p>	<p>・「相手の立場に立って考え行動できる子」について、人権教育の面からは課題に挙げられているが、児童アンケートでは「いじめを止めるように言ったり、誰かに伝えたりすることができる」と回答した児童が77%おり、教職員と児童との間で捉え方にズレがあるように思う。めざす姿の具体像を共有し、今後も取組を続けてほしい。</p>	<p>・地域とともに取り組みやすい活動については、子どもたちが家庭や地域に直接伝えられるように働きかけたり通信等を通じて発信したりしていく。                      ・今後も、一人一人を大切にしている取り組みをこれからも日常的に実践し、日々の生活の中で相手の立場に立って考えるような機会を逃さずにとらえ、子どもたちが自然とそれを意識できるように仕向けていきたい。</p>
生徒指導	<p>基本的生活習慣の育成                      【目標】あいさつ指導の徹底                      【指標】「自らすすんであいさつできる」子ども90%以上                      【指標】児童会、委員会等による児童が自主的に学校生活を良くしていく活動の実施</p> <p>不登校やいじめのない学校づくりの推進                      【目標】子どもが「明日も来たい」と思えるような学校づくり                      【指標】いじめについてのアンケートおよびいじめ対策委員会 年間3回実施                      【指標】児童の気になる様子や、学級の現状を毎月情報交換し、学校全体で情報共有するとともに対応を検討する。                      【指標】「いじめをやめるように言ったり、誰かに伝えたりすることができる」と答える児童の割合90%以上                      【指標】いじめ防止をテーマにした授業を実践。</p>	<p>・児童アンケート結果より「自らすすんであいさつできる」と回答した児童は86%で、目標を達成できなかった。                      ・各委員会から、学校生活をよくしていくための活動を実践することができた。児童会、代表委員会は年間を通して、あいさつ運動を実施した。</p> <p>・児童アンケートの結果より「学校が楽しい」と88%の児童が回答した。                      ・いじめ、虐待についてのアンケート、および対策委員会を年間3回実施し、いじめ、虐待の早期発見や継続した観察に活かした。                      ・不登校や配慮の必要な児童の情報を毎月交換し、情報を細かく早く共有することができた。                      ・児童アンケートの結果より、「いじめをやめるように言ったり、誰かに伝えたりすることができる」と77%の児童が回答した。</p>	<p>・児童会、代表委員会の活動では、児童が積極的にあいさつできるような工夫した取り組みを行い、期間中は児童が進んであいさつする様子が見られた。しかし、年間を通して見たとき、取り組み期間外のあいさつについては、声の大きさや積極性において課題がある。                      ・児童会や委員会等で、学校生活をより良くするために、児童が取り組みを考え、発信する活動を行ってきた。その結果、あいさつに関するだけでなく、自分たちで郡山小学校をより良くしていこうとする姿が見られるようになった。</p> <p>・いじめ、虐待についてのアンケートの結果を受けて、各担当が教育相談を実施し、児童の実態を把握して対処することができた。また、必要に応じて対応について複数の教員で協議したり、その内容を職員間で共有したりして、共通理解を図りながら取り組むことができた。                      ・定期的な情報交換によって、配慮の必要な児童に関して、共通理解を持って教育活動を進めることができた。                      ・いじめを許さない姿勢やいじめを解決しようとする姿勢を育てるため、いじめに関する授業や、人権に関する授業を各学級で設定することで、いじめについて共に考える機会を持つことができた。</p>	<p>・昨年度も提案しているが、ピンクシャツ運動等は地域も一緒に取り組めるとよい。児童会等からの声かけで、学校運営協議会も一役買えるるとよい。                      ・いじめ等に関する図書の利用を</p>	<p>・児童会や委員会の活動を通じて、子どもたちから働きかけて、自らあいさつができるように継続して取り組んでいく。                      ・あいさつの取り組み期間中だけでなく、あいさつの習慣がつくように繰り返し声をかけていく。                      ・登下校の安全について、交通安全教室や、地区別児童会の機会に重点的に指導していく。                      ・委員会活動や行事の様子をホームページ等で発信し、学校の取り組み内容を伝えていくようにする。</p> <p>・いじめを許さない、見逃さない姿勢で指導にあたる。                      ・困っていることを言えるような児童間や、児童と教師の関係づくりをすすめていく。                      ・日々の学校生活の中、健康観察や身体測定等の場面で異変に気が付いたときは、情報を共有し、児童の様子の変化を見逃さない体制をつくる。                      ・不登校傾向が見られた時に、初期対応のための体制をしっかりとつくれるようにする。また、不登校傾向のある児童が学校に来やすい環境をつくれるようにチームで対応し、支援を続けられるようにする。                      ・ピンクシャツ運動など地域へも広めたい取り組みについて、学校だよりやホームページ等を活用し、情報発信及び啓発に努める。</p>
地域ぐるみの教育	<p>鈴鹿型コミュニティースクール                      【目標】地域と共にある学校づくり                      【指標】学校運営協議会の開催回数 年間6回                      【指標】月1回の学校だより発行・学校ホームページの積極的な更新を通じた、地域への情報発信</p> <p>地域の教育力の活用                      【目標】地域と共に子どもを育てる学校づくり                      【指標】ボランティアによる学習支援 年間170回以上</p>	<p>・学校運営協議会を年6回開催（うち第3回は天栄中学校区拡大）し、協議内容等は、学校HPや学校だよりで地域・保護者に情報発信した。                      ・昨年度と同様に、プレゼンテーションソフトを活用し学校の様子を各委員へ伝えた。                      ・学校だよりを月1回以上発行し、学校の教育活動について発信した。また学校HPを学校行事の開催ごとに更新し、子どもたちの学校生活の様子等について定期的・タイムリーに発信した。</p> <p>・交通指導、環境整美や読み聞かせボランティアに加え、出前授業や生活科等校外学習の際の見守り、図工科・家庭科等実技教科の補助、水泳指導の見守り、朝の児童受け入れ時の補助等様々な教育活動で支援を受け、本校の教育活動の充実につながった。                      ・新型コロナウイルス感染症拡大予防のためボランティアルーム（作志の部屋）や学習ボランティアの活用が中止されていたが、法的な位置づけが5類に変更されたことに伴い、学習ボランティアの活用が今年度は進んだ。</p>	<p>・学校運営協議会では、子どもたちの状況を踏まえた議論が熱心に行われた。今後、学校運営協議会で議論された内容をどのように地域・保護者へ発信し、さらなる子どもたちの健全育成につなげていくのか検討したい。                      ・学校規模適正化に向けた今後の動きを注視し、「地域と共にある学校づくり」の具現化に向けた課題等を整理する必要がある。                      ・学校だより、学校HPについて、今後もタイムリーに情報発信を行うことと合わせ、学校HPの閲覧数を増やす取組も続ける必要がある。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の法的な位置づけの変更（2類相当→5類）に伴い、地域人材や外部講師の活用が進んだ。                      ・引き続き感染症拡大予防対策を徹底しながら、子どもたちの体験活動や学習支援等の充実を図る必要がある。                      ・地域コーディネーターの尽力により、地域の方がボランティア活動の趣旨を理解し、参加しやすい環境づくりができています。                      ・今後も地域コーディネーターとの連携を進め、学校と地域のニーズをすり合わせながら、地域の教育力を活用した教育活動の充実をさらに図る必要がある。</p>	<p>・学校HPの閲覧について、体裁が市で統一され操作しにくくなったと感じる。例えば配信メールにUPしたページのURLを添付して送ってもらえると、リンクをタップするだけで見ることができるとありがたい。                      ・学校からの配付物について、可能なものはペーパーレス化していただけるとありがたい。                      ・学校再編計画について、今年度は教育委員会から学校運営協議会への説明が全くなかった。</p> <p>・ボランティアで入る人の名前を子どもたちが覚えるようになった。引き続き、子どもたちがボランティアの人を「〇〇さん」と名前と呼べるような関わりができるとよい。                      ・コロナ禍が明け、ボランティア活動を通して改めて地域の方と顔を合わせた繋がりを積極的に作ってほしい。</p>	<p>・引き続き「学校だより」で学校行事や教育活動等児童の学校での様子を保護者・地域へ発信していくとともに、QRコードを掲載し、学校HPでは、タイムリーに情報発信していることを伝えていく。                      ・配信メールへのリンクの添付や配付物のペーパーレス化について今後検討を行う。                      ・学校再編により令和8年度開校される「新たな小学校」について、子どもたちにとってより良い学校とするべく引き続き保護者・地域との連携に努める。</p> <p>・子どもたちの学力保障や豊かな教育活動の実現等に向け、引き続き地域コーディネーターと連携し、学校支援ボランティアの活用を積極的に図りたい。</p>